

長岡技術科学大学 体育・保健センター 年報
平成16年度版

平成18年3月

長岡技術科学大学
体育・保健センター

1. はじめに

体育・保健センター長 三宅 仁

長岡技術科学大学 体育・保健センター 年報 平成16年度版をお届けします。予算の効率的使用、IT化の進展等を鑑みて、前回からweb上にて公開致しております。なお、データの一部は統計的使用を目的に得られたものでありますので、目的外使用はお断り致します。

さて、平成16年度は平成16年10月23日（土）午後5時56分の新潟県中越地震があり、発生以来短時間の間に本センター始まって以来試練がありましたが、何とか凌ぐことができました。これもひとえに皆様方のご援助の賜物と存じております。この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。なお、不十分ではありますが、17年3月のフィジカルヘルスフォーラム、同7月の関東甲信越地区保健管理研究集会、同10月の全国大学保健管理研究集会等において発表させて頂いた報告をもって、中越大震災の報告に代えさせていただきます。このような機会をお与え下さいました関係各位にも重ねて御礼申し上げます。

さて、残念なことを報告しなければなりません。本センター開設間もない頃から23年間にわたって勤務した看護師の若月 トシが平成17年3月末日をもって定年退職致しました。長年にわたる本学保健管理業務のみならず、多くの関連業務を着実にこなして、無事定年に至ったことはまことに羨むべきことであり、多くの教職員・学生が感謝していることと思います。末永いご多幸とご健康をお祈り申し上げます。

今後ともよりよい体育・保健センターを目指して努力する所存でありますので、関係各位の倍旧の御支援・御協力をお願いするものであります。

平成18年3月 冬の終わりに残雪に囲まれて

長岡技術科学大学 体育・保健センター 年報 平成16年度版 目次

1. はじめに ——センター長挨拶

2. 管理概要

 体育部門

 保健部門

3. 資料

 ◇ 第43回全国大学保健管理研究集会特別報告

2. 施設管理報告

➤ 体育施設関係

➤ 保健管理関係

平成16年度 体育施設(特別)使用許可件数

年/月	体育館	武道館	野球場	多目的グラウンド	テニスコート	ラグビー場	陸上競技場	ゴルフ練習場	計
16/4	25	2	0	52	3	0	1	1	84
5	47	0	1	104	12	0	11	35	210
6	39	0	0	62	1	0	0	25	127
7	49	0	0	10	4	0	0	12	75
8	44	1	0	1	3	0	0	1	50
9	37	0	6	30	2	7	0	17	99
10	39	0	0	4	1	0	0	5	49
11									
12									
17/1									
2									
3									
計	280	3	7	263	26	7	12	96	694

平成16年度 体育物品貸出件数

年/月	テニス	ソフトボール	バドミントン	キャンプ		ゴルフ	スキー	計
		野球		テント	シュラフ			
16/4	0	33	0	1	4	1		39
5	19	70	12	0	0	20		121
6	1	70	20	0	0	18		109
7	18	16	10	11	0	2		57
8	1	0	15	20	15	1		52
9	4	33	26	0	1	11		75
10	0	0	35	2	2	4		43
11				0	0			0
12				1	9		4	14
17/1							12	12
2							50	50
3							84	84
計	43	222	118	35	31	57	150	656

10月以降10月23日の中越大震災の影響により、データ欠損

平成16年度 定期健康診断の結果

○ 内科診察等の結果

学 年	対象者数	受診者数	受診率	再 診 察			再 診 察 の 結 果		
				要再診数	受診数	受診率	異常なし	経過観察	要精検数
1	122	114	93.4	2	1	50.0	1	0	0
2	136	116	85.3	1	1	100.0	1	0	0
3	456	434	95.2	3	3	100.0	2	1	0
4	554	365	65.9	1	1	100.0	0	1	0
M1	403	386	95.8	2	2	100.0	2	0	0
M2	441	363	82.3	2	1	50.0	1	0	0
博士	172	95	55.2	1	0	0.0	0	0	0
計	2,284	1,873	82.0	12	9	75.0	7	2	0

○ 胸部X線間接撮影の結果

学 年	対象者数	受検者数	受検率	有所見数	要精検数
1	122	116	95.1	5	2
2	136	116	85.3	3	2
3	456	439	96.3	9	1
4	554	490	88.4	22	5
M1	403	389	96.5	15	6
M2	441	368	83.4	20	5
博士	172	97	56.4	6	2
計	2,284	2,015	88.2	80	23

○ 血圧測定の結果

学 年	対象者数	受検者数	受検率	再 検 査			再 検 査 の 結 果		
				要再検数	受検数	受検率	異常なし	経過観察	要精検数
1	122	116	95.1	15	12	80.0	12	0	0
2	136	116	85.3	22	18	81.8	18	0	0
3	456	440	96.5	60	42	70.0	39	3	0
4	554	491	88.6	83	70	84.3	66	4	0
M1	403	390	96.8	50	41	82.0	40	1	0
M2	441	368	83.4	50	44	88.0	42	2	0
博士	172	98	57.0	18	15	83.3	14	1	0
計	2,284	2,019	88.4	298	242	81.2	231	11	0

○ 尿検査の結果（ 蛋白・糖・潜血 ）

学 年	対象者数	受検者数	受検率	再 検 査			再 検 査 の 結 果		
				要再検数	受検数	受検率	異常なし	経過観察	要精検数
1	122	116	95.1	17	15	88.2	12	3	0
2	136	116	85.3	15	14	93.3	14	0	0
3	456	438	96.1	42	37	88.1	37	0	0
4	554	489	88.3	46	45	97.8	42	2	1
M1	403	390	96.8	40	37	92.5	33	4	0
M2	441	368	83.4	35	32	91.4	28	4	0
博士	172	98	57.0	9	8	88.9	7	1	0
計	2,284	2,015	88.2	204	188	92.2	173	14	1

平成16年度 定期健康診断の結果

○ 内科検診の結果

	対象者数	受診者数	受診率	再診察			再診察の結果		
				要再診察	受診数	受診率	異常なし	経過観察	要精検数
学 生	2,284	1,873	82.0	12	9	75.0	7	2	0
教職員	408	170	41.7	0	0	—	0	0	0
計	2,692	2,043	75.9	12	9	75.0	7	2	0

○ 胸部X線間接撮影の結果

	対 象 者 数	受 診 者 数	受 診 率	有 所 見 数	要 精 検 数
学 生	2,284	2,015	88.2	80	23
教 職 員	408	165	40.4	20	4
計	2,692	2,180	81.0	100	27

○ 血圧測定の結果

	対象者数	受検者数	受検率	再検査			再検査の結果		
				要再検数	受検数	受検率	異常なし	経過観察	要精検数
学 生	2,284	2,019	88.4	298	242	81.2	231	11	0
教職員	408	189	46.3	49	25	51.0	15	10	0
計	2,692	2,208	82.0	347	267	76.9	246	21	0

○ 尿検査の結果（ 蛋白・糖・潜血 ）

	対象者数	受検者数	受検率	再検査			再検査の結果		
				要再検数	受検数	受検率	異常なし	経過観察	要精検数
学 生	2,284	2,015	88.2	240	188	92.2	173	14	1
教職員	408	182	44.6	36	25	69.4	21	3	1
計	2,692	2,197	81.6	240	213	88.8	194	17	2

平成16年度 体育・保健センター疾病者応急処置状況

長岡技術科学大学

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			合計		
	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計			
(1) すり傷・切り傷・刺し傷等	2 (0)	0	2 (0)	2 (0)	0	2 (0)	4 (0)	1	5 (0)	14 (0)	0	14 (0)	12 (1)	0	12 (1)	10 (0)	1	11 (0)	10 (0)	1	11 (0)	10 (1)	3	13 (1)	4 (0)	1	5 (0)	3 (1)	1	4 (1)	4 (0)	1	5 (0)	6 (4)	1	7 (4)	81 (7)	10	91 (7)
(2) 打撲・捻挫・筋肉痛	11 (0)	1	12 (0)	13 (1)	1	14 (1)	11 (2)	6	17 (2)	8 (0)	4	12 (0)	4 (0)	4	8 (0)	9 (1)	2	11 (1)	6 (0)	4	10 (0)	5 (3)	1	6 (3)	2 (1)	3	5 (1)	3 (1)	2	5 (1)	4 (2)	2	6 (2)	5 (1)	4	9 (1)	81 (12)	34	115 (12)
(3) 火傷	0 (0)	0	0 (0)	1 (0)	0	1 (0)	4 (0)	0	4 (0)	0 (0)	0	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)	5 (5)	1	6 (5)	0 (0)	0	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)	1 (0)	0	1 (0)	0 (0)	0	0 (0)	11 (5)	1	12 (5)
(4) 頭痛・感冒等	32 (4)	21	53 (4)	25 (0)	8	33 (0)	16 (3)	10	26 (3)	21 (2)	1	22 (2)	7 (1)	3	10 (1)	16 (1)	8	24 (1)	16 (1)	12	28 (1)	29 (9)	16	45 (9)	19 (6)	11	30 (6)	8 (3)	15	23 (3)	20 (6)	10	30 (6)	19 (6)	12	31 (6)	228 (42)	127	355 (42)
(5) 腹痛・下痢等	11 (2)	1	12 (2)	8 (1)	3	11 (1)	7 (0)	2	9 (0)	5 (1)	1	6 (1)	1 (0)	1	2 (0)	9 (0)	2	11 (0)	5 (0)	0	5 (0)	4 (2)	4	8 (2)	5 (0)	3	8 (0)	3 (1)	3	6 (1)	2 (0)	4	6 (0)	2 (0)	3	5 (0)	62 (7)	27	89 (7)
(6) 歯・耳・鼻・咽頭に関する症状	17 (1)	13	30 (1)	12 (1)	3	15 (1)	7 (1)	2	9 (1)	6 (1)	0	6 (1)	0 (0)	3	3 (2)	5	8 (2)	7 (0)	4	11 (0)	13 (3)	7	20 (3)	7 (3)	6	13 (3)	6 (4)	6	12 (4)	10 (5)	9	19 (5)	6 (1)	3	9 (1)	94 (22)	61	155 (22)	
(7) その他	20 (1)	4	24 (1)	11 (3)	1	12 (3)	11 (5)	3	14 (5)	21 (4)	1	22 (4)	4 (0)	1	5 (0)	24 (1)	3	27 (1)	3 (1)	3	6 (1)	12 (3)	5	17 (3)	8 (0)	5	13 (0)	10 (3)	3	13 (3)	5 (1)	4	9 (1)	6 (1)	4	10 (1)	135 (23)	37	172 (23)
計	93 (8)	40	133 (8)	72 (6)	16	88 (6)	60 (11)	24	84 (11)	75 (8)	7	82 (8)	28 (2)	12	40 (2)	71 (5)	21	92 (5)	47 (2)	24	71 (2)	78 (26)	37	115 (26)	45 (10)	29	74 (10)	33 (13)	30	63 (13)	46 (14)	30	76 (14)	44 (13)	27	71 (13)	692 (118)	297	989 (118)

()内は留学生を内数で示す。

平成16年度 健康診断証明書発行数

	学 部	大 学 院	合 計	累 計
4 月	198	359	557	557
5 月	86	194	280	837
6 月	51	189	240	1,077
7 月	15	80	95	1,172
8 月	10	18	28	1,200
9 月	31	29	60	1,260
10 月	2	17	19	1,279
11 月	4	7	11	1,290
12 月	3	16	19	1,309
1 月	12	135	147	1,456
2 月	5	231	236	1,692
3 月	44	455	499	2,191
合 計	450	1,675	2,191	

平成16年度 健康相談者数

学生の（ ）は留学生内数

	学 生		教職員	計	医療機関へ
	学 部	大学院			
4 月	24 (1)		6	30	4 (学生)
	17 (1)	7 (0)			
5 月	19 (4)		1	20	3 (学生)
	16 (2)	3 (2)			
6 月	12 (5)		2	14	4 (学生)
	4 (2)	8 (3)			
7 月	19 (3)		0	19	2 (学生)
	12 (0)	7 (3)			
8 月	2		0	2	1 (学生)
	1 (0)	1 (0)			
9 月	10 (1)		1	11	
	2 (0)	8 (1)			
10 月	3 (1)		2	5	1 (学生)
	1 (0)	2 (1)			
11 月	15 (6)		3	18	3 (学生)
	6 (1)	9 (5)			
12 月	8 (0)		2	10	
	5 (0)	3 (0)			
1 月	6 (3)		2	8	
	1 (0)	5 (3)			
2 月	9 (5)		0	9	2 (学生)
	3 (1)	6 (4)			
3 月	7 (2)		3	10	1 (学生)
	3 (0)	4 (2)			
合 計	134 (31)		22	156	21 (学生)
	71 (7)	63 (24)			

3. 資料

- 第 43 回全国大学保健管理研究集会特別報告(平成 17 年 10 月 19 日山形市)

中越地震の教訓

長岡技術科学大学 体育・保健センター 三宅 仁

キーワード 中越地震、大震災、教訓

1. はじめに

2004年10月23日午後5時56分頃、新潟県中越地方（長岡市、小千谷市、川口町、旧山古志村など）を震源とする震度7の烈震が発生した（図1）。新潟県中越大震災災害対策本部による平成17年10月14日16:15現在のまとめでは人的被害は死者51人、重軽傷者4,795人。住家被害は120,397棟、129,041世帯となっている。長岡技術科学大学は長岡市の西部丘陵地帯に位置し、幸いなことに被害は最小限ですんだが、大学保健管理センターの役割という点において多大な問題提起がなされたと思われる。本特別報告「地震を巡って」では、その後の同年12月28日スマトラ島西方沖地震および津波、2005年3月20日の福岡県西方沖の地震、さらには4月11日の千葉県中部地震など比較的規模の大きい地震が相次いでいることを踏まえ、我々の実態を報告し、何らかの教訓を汲み取って頂ければ幸いである。なお、本報告の内容は2005年7月8日に開催された関東地方会においても同趣旨の発表を行っており、重複するところも多々あるが、ご容赦願いたい。

2. 中越大震災の特徴

中越大震災の特徴として特に挙げたいのは直下型であり、また余震が従来言われていたものと違って規模の大きいものが続いたことである。このため、実際の被害も拡大したが、心理的な不安の継続が多大なストレスをもたらした。また今冬は例年になく豪雪であったためその被害が逡増された（図2）。気象庁の地震情報や独立行政法人・防災科学技術研究所が運営するHi-net高感度地震観測網によれば、ほとんど毎日全国のどこかで地震が起きており、空白地帯は

ない。むしろ比較的少ないところは今後の大地震の確率が高いと考えた方がよい（図3）。

一方、前記の状況にも関わらず、種々の好条件（季節、時刻、曜日など）が重なったためか、地震の規模に比較して人的被害は少なかった。また医療関係の状況としては、阪神・淡路地震等の教訓などにより、初期から多数の救助・応援があり、ほぼ満足すべき状況であったといえよう。エコノミークラス症候群やたこつぼ型心筋症などの肉体的疾患はこの地震でさらに注目された。精神疾患のPTSDはもはや定番であるが、対策としては十分な人的資源の投入以外には適切な解答とは言えない。我々はスクリーニングとして多数のアンケート調査を行なったが、これも負の側面があることを忘れてはならないであろう。

3. 本学の状況

本学の状況としては幸運にもほとんど人的被害はなく、建物や実験装置等に若干の被害があったのみであった（図4参照）。ただし、このような大規模災害に対する準備・マニュアル等がなく、当初は混乱した。特にASD・PTSD等を含めて、精神的なサポートは学生のみならず、教職員すべてにとって重要であった。当センターとしては物理的なサポートはできなかったものの、精神的なサポートの実践は多少できたと考えるが、継続的なサポートができなかった点も含め、課題も多い。すなわち、個人的に被災した者は学生29名、教職員は相当数に上ったが、経済的援助などは行政の範疇であるので、センター関与の援助はほとんど必要とされなかった。

図5は当センター入り口付近にある固定していなかった2段重ねのファイルキャビネットである。もし、人に当たっていれば重大な結果となっていたであろう。学内には多数このような状況が見られたが、幸運にも誰ひとり倒れてきた棚や本などではケガを負わなかった。

また、東海地震や関東地震などで言われているいわゆる「帰宅難民」はほとんど発生しなかった。ただし、当日遠隔地に出張していた者は帰宅に際し相当の苦勞をしたようである。

4. 対応の実際

(1) 急性期—救急体制

救急体制は最小限のものしかなく、このような大災害時にはほとんど無力である。結果的には上記のように学内でのケガ等はセンター以外で対応され、センターは利用されずに終わった。その他では復旧期でのケガやカゼひきなどの対応が若干あった程度である。

(2) 安否確認

センター職員はごく少数であるので容易であったが、全学的な安否確認はセンターの役割ではない。大学全体としてはかなり困難があり、全員の確認に数日を要した。その中にはいち早く県外に逃げ出した者（実家や大使館等）も含まれた。また携帯電話での確認は設備の破損や問い合わせ殺到による不通、番号変更によるもの、電池切れによる使用不可能などの理由により、かなり困難であった。

(3) 学内の安全点検

全部を見たわけではないが、安全確認のため、大体のところは見回った。研究室内部は研究室ごとにかなり差があったようだ。

(4) 亜急性期—避難所の巡回

学内に避難した学生は当初適当に分散していたが、3日目から大学で避難所を指定した。数カ所となったので、看護師と交代で避難所を巡回したが特に問題はなかった。救援物資としてカゼ薬や胃腸薬などの市販薬を頂いたので、適当に配布した。衛生用品は特に重宝されたようだ。

(5) 留学生問題

留学生は出身国によってさまざまな対応の違いが表面化した。全く地震を経験したことのない学生は、余震も頻発したので恐怖におののき、屋外で幾日も過ごした。またある国の学生は、東京の大使館員が保護にあたり、逆に連絡が取れなくなった。また、ある国の留学生は10人前後の集団で共同避難生活を送ったという。その他さまざまであったが、特に最初のグループに対する心理的ケアが必要であった。いつからかははっきりしないが、コミュニティラジオ（FM ながおか）などでは市内の外国人向けに数カ国語の避難情報

を放送していたようだ。(いわゆる災害弱者問題の検証も必要であるが、ここでは省く。)

(6) 教授会—ASD と PTSD

断続的に緊急の幹部会議が開催されたが、地震発生後7日目に緊急教授会が招集された。ここでは ASD (Acute Stress Disorder) と PTSD (Post-Traumatic Stress Disorder) の違いについて特別に発言した。特に ASD は全員がその症状が出ることなどを話し、あくまで生理的反応であることを強調した。さらにはキューブラー—ロスの「死ぬ瞬間」を少し改変した、過酷な運命の受け入れについての資料を説明し、この難局の心理的受容について講話した。

(7) 復旧期—PTSD アンケート

上記の留学生の問題もあり、早期に PTSD 対策が必要と判断された。11月初旬、京都大学防災研究所巨大災害研究センター林春男教授が開発した「PTSD 診断尺度」を用いて、その早期発見に努めた。留学生用には本学留学生センターの協力を得て、英訳をして使った。その結果、やはり留学生には PTSD を疑う得点が高かったが、時期的には震災後2週間程度と早く、PTSD の診断基準である1ヵ月以上は満たしていなかった。12月末にも再度調査を行なったが、直前の余震のため、得点が高くなる傾向が見られた。これは日本人学生も同様であった。これらから、余震が収まらない限り、正確な PTSD の診断は無理であり、ASD としてとりあえずの心理的ケアの方が実用的と判断された。

また(2)の安否確認によっていわゆるひきこもりが露見したり、数件の精神疾患の発見につながった。これらの詳細については大学メンタルヘルス研究会にて発表する予定である。

(8) 復興期—新年度

年度末に AED (Automated Extracorporeal Defibrillator、体外式自動除細動器) を4台購入し、1台は PAD (Public Access Defibrillator、公共除細動器) として、学生食堂の前においた(図6)。新年度からはアドバイザー教官制度として、教官全員が数名の学生を受け持つこととなった。

5. 緊急時の対応—retrospectiveに

一般演題「中越大震災と保健管理センターの役割」に詳しく述べたが、地震発生時には緊急時のマニュアルは無いに等しかった。スタッフの連絡先リストもなかった。実際には電気・ガス・水道のいわゆるインフラが断絶し、携帯電話などの通信も途絶えた。また、交通手段も限られ、たまたま燃料も尽きていた。したがって、移動そのものもごく近距離に限られた。また、いわゆる情報断絶状態となり、数時間後につながった遠い親戚との携帯電話でのやりとりから、やっと自分たちの状況が分かるという有様であった。ただし、本学においては食糧や飲料水などは比較的早期に配給された。やはり震源からやや離れていたことが幸いした。

個人的には2次災害の防止が優先されると考えた。さらに記録(デジカメによる)やwebによる情報発信が重要と考えられたが、後者は3日目の停電の復帰まで待たねばならなかった。

センターの対応としては、センター自身が被災したので、その後片付けを最小限として、ケガや急病の受け入れ態勢の整備を心懸けたが、結果的にはほとんど利用がなかった。したがって、上記4.の心理的ケアに対応の重点をおいた。

6. まとめにかえて

生涯に1度あるかどうかと未曾有の大災害を経験した。一方、本学には関西地方出身の学生・教職員がおり、10年前の阪神淡路大震災も経験したという者が比較的多数いた。その人たちはその経験がかなり役に立ったようだ。行政レベルにおいては如実にその効果があったと聞く。しかしさまざまな事象や特に心理的状況などは文献として残りにくく、経験として個人的な記憶に留まらざるを得ないことが多い。我々もできるだけ客観的な記述・記録を試みたが、実際は幾百倍も伝達困難な事象がある。行間から多少なりともそれを読み取っていただければ幸いである。

<謝 辞>

全国の大学および国民の皆様から多大なご援助を頂いたことを感

謝申し上げます。

< 参考 URL >

気象庁地震情報

http://www.jma.go.jp/JMA_HP/jp/quake/

独立行政法人・防災科学技術研究所 Hi-net 高感度地震観測網

<http://www.hinet.bosai.go.jp/>

国土交通省 防災情報提供センター

<http://www.bosaijoho.go.jp/index.html>

総務省消防庁

<http://www.fdma.go.jp/bn/2004/index.html>

地震予知連絡会

<http://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/ccephome.html>

新潟県中越大震災に関する情報

http://saigai.pref.niigata.jp/content/jishin/jishin_1.html

長岡市災害対策本部

<http://www.bousai.city.nagaoka.niigata.jp/jisin.html>

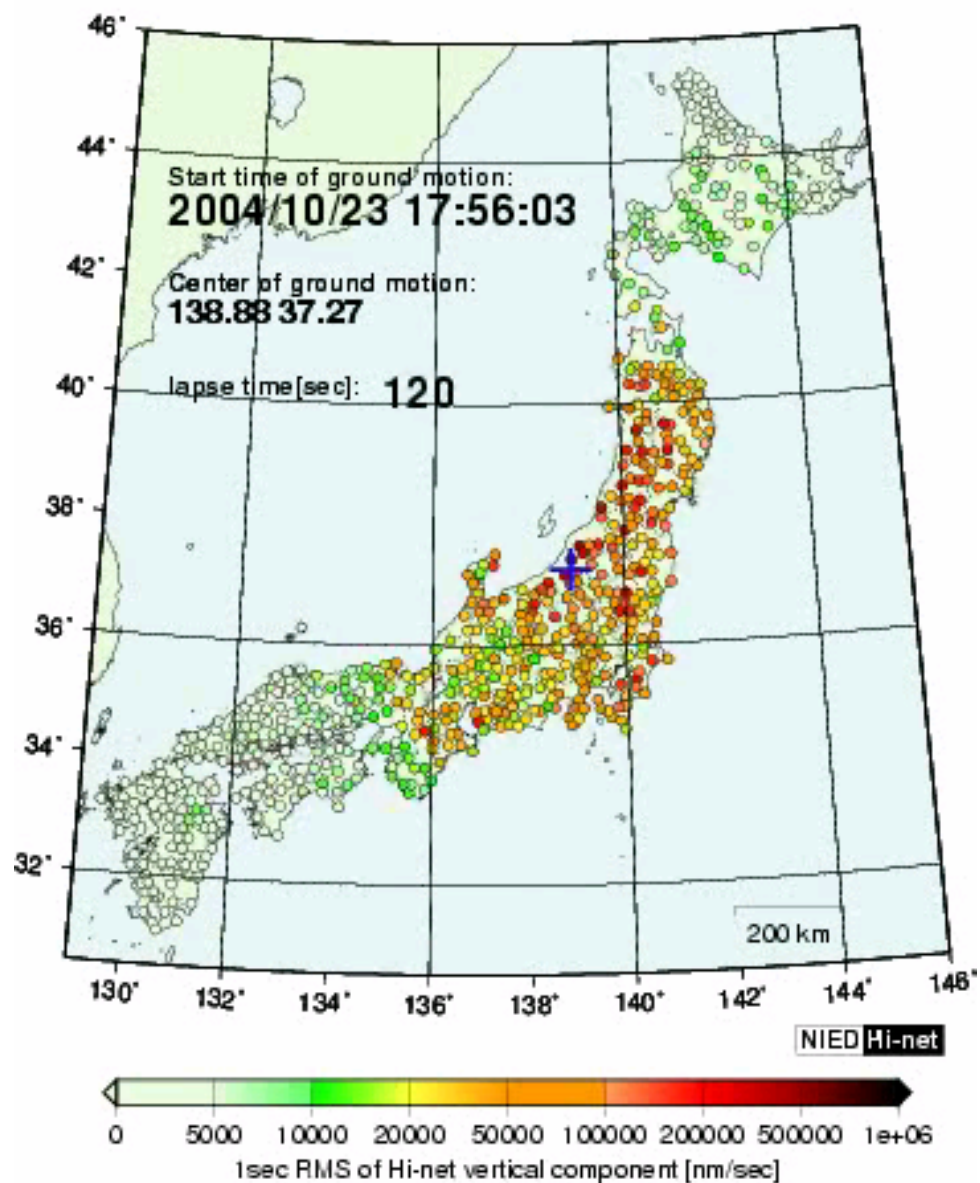
財団法人 新潟県中越大震災復興基金

<http://www.chuetsu-fukkokukikin.jp/zaidan/index.html>

特別報告「中越地震の教訓」用 図・写真 説明はノート部分に

長岡技術科学大学
体育・保健センター
三宅 仁

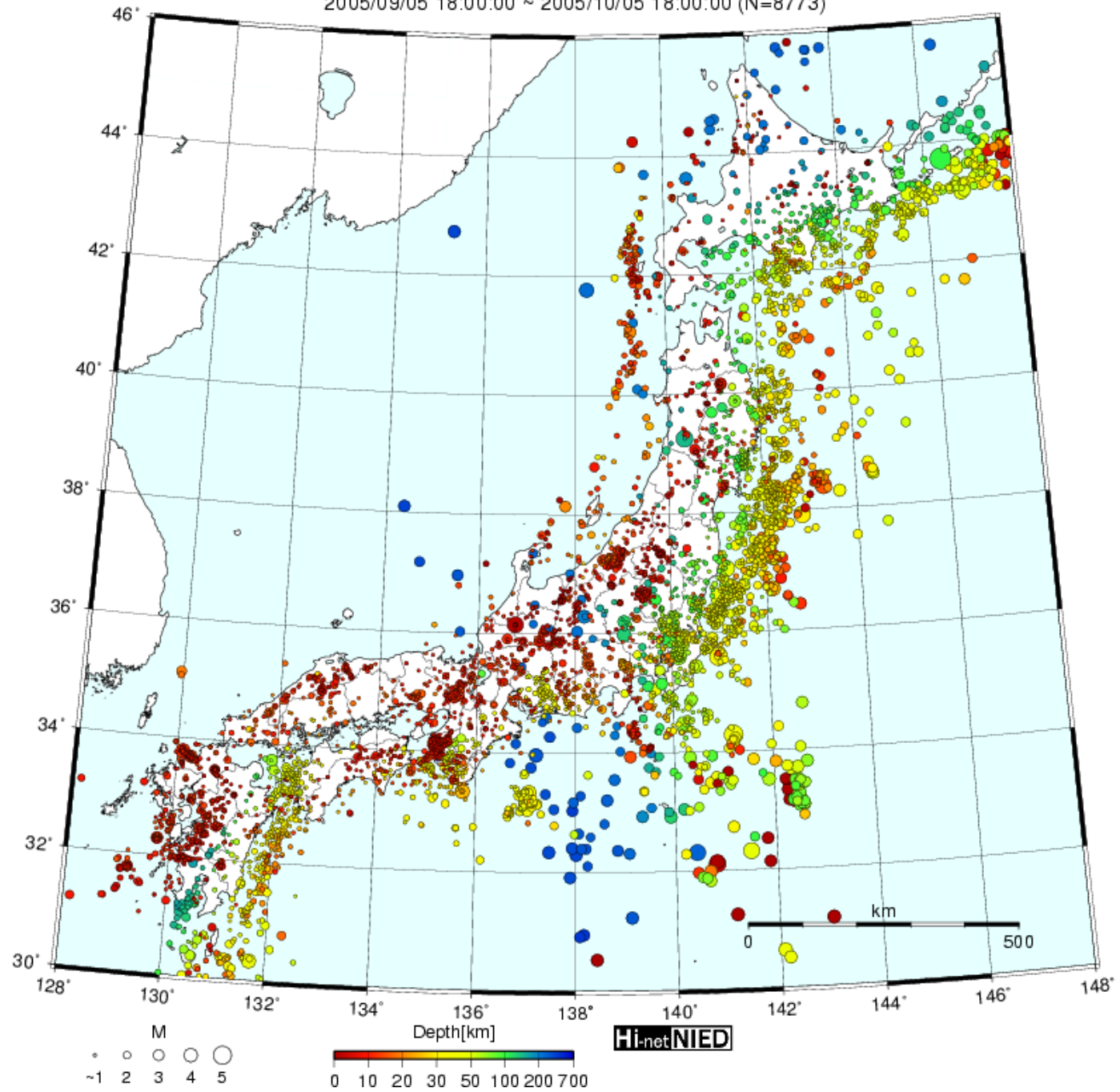
Shake map of velocity amplitude





体育館
体育保健センター

2005/09/05 18:00:00 ~ 2005/10/05 18:00:00 (N=8773)



安全確認
 学生：2,271人全て安全確認済(けが人3人(軽傷))
 教職員：379人全て安全確認済み

被害状況
 校舎研究棟 ・図書館内部(内装、空調吹出口、照明等)破損有。他の建物は問題なし。
 学生関係宿舎 ・全ての建物問題なし
 教職員宿舎 ・深沢町宿舎(RC-5)問題なし
 ・長岡宿舎(RC-5)建物に小破損有るが、使用上問題なし。ガスに不具合有り。調査中
 ・上条宿舎(木造、及びコンクリートブロック造)問題なし

その他
 ・グラウンド、テニスコート等に亀裂有り、ゴルフ練習場ネット支柱に傾き有り
 ・駐車場2箇所に亀裂、段差発生、1ヶ所使用禁止
 ・歩行者用中庭(コンクリート平板等)部分に部分的に陥没致設備所
 ・地上式受水槽(FRP製250t)の上部蓋破損及び底部に亀裂有り、少量漏水
 ・高置水槽破損。機械建設1~4号棟、電気1~3号棟、情報処理センター棟断水、応急修理中
 ・ブロック塀倒壊
 ・外灯器具がロープ落下(3箇所)
 ・建物のEXP.J部破損、雨漏り(雨漏り箇所は別紙参照)
 ・建物の所々に亀裂有り

構内避難者 学生：11人(留学生6人、日本人5人)避難場所-クラブハウス
 地域住民：なし

ライフラインの状況等
 電気：通電(10/25 22:35)
 水道：通水(10/26、市から通常の40%の圧力で供給、10/29に通常の圧力に回復)
 ガス：開栓(10/28 17:00)
 電話：開通(10/25 23:30)

支援申出機関 60機関(国立大学、国立短期大学、国立高等専門学校、大学共同利用機関等)
 うち支援機関 9機関(大学：7 高専：2)



★：建物のEXP. J部破損 28か所

高置水槽破損 (28t) 1基

駐車場破損 955㎡

地上式受水槽 (FRP製250t) 破損 (1基)

建物廻り陥没 806㎡

ブロック塀倒壊102m

テニスコート陥没 1580㎡

ラグビー場陥没 5250㎡

液状化現象

ゴルフ練習場破損 一式

保健室、事務室
以外、不ふ心口
使用、台字に付、
体育館、研究室
での使用も禁止!!
障美保健室





AED
Automated External Defibrillator

AED
Automated External Defibrillator



長岡技術科学大学 体育・保健センター

年報 平成16年度版

平成18年3月 発行 (pdf版)

(C) 2006 無断引用お断り

編集 体育・保健センター

連絡先 〒940-2188 長岡市上富岡町 1603-1

長岡技術科学大学 体育・保健センター

担当 三宅 miyake@melabo.nagaokaut.ac.jp

TEL 0258-47-9822 Fax 0258-47-9821